トークイベント

戦前・戦中の中国史蹟フィルム
— 京大人文研所蔵フィルムを見る —

京都大学人文科学研究所の前身である東方文化学院京都研究所 (東方文化研究所) は、1929 年の設立から 1945 年の終戦までの間、中国北部におけるフィールド調査をかなりの回数おこなってきました。それらのフィールド調査における記録フィルムのうち、現在、残されているのは、1934 年・1936 年・1938 年の 3 本だけです。今回のトークイベントでは、これら 3 本の 16mm フィルムを一気に上映すると同時に、京大人文研の精鋭研究者によるフィルム解説をおこないます。

とき: 2009 年 10 月 31 日 (土)14:00 〜 16:00
ところ: 京都大学総合博物館 2F 企画展示室上映スペース
司会: 菊地暁 (京都大学人文科学研究所)
解説: 安藤房枝・向井佑介・安岡孝一 (京都大学人文科学研究所)

映像プログラム

1. 北支遊記 (1934 年・白黒 16mm サイレント ・16 分)

1934 年 8 月 30 日〜 9 月 17 日撮影。撮影者は長廣敏雄 (東方文化学院京都研究所研究員)。撮影場所は、北京 (当時は北平) 市内の北海公園・正陽門・故宮・観象台、北京郊外の頤和園仏香閣・香山・明十三陵・房山雲居寺、および山西省大同の雲岡寺など。

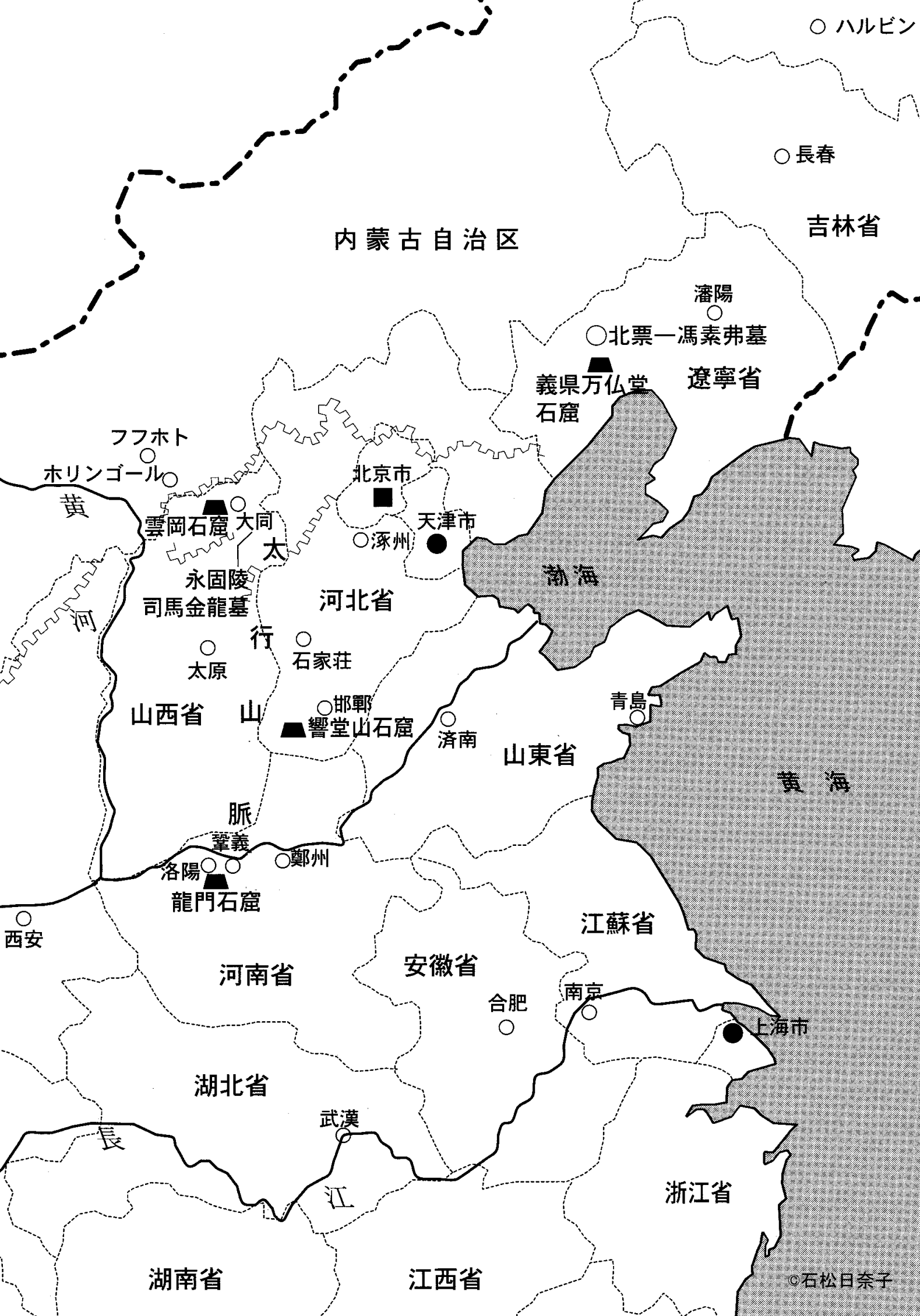
2. 北支史蹟調査旅行 (1936 年・白黒 16mm サイレント ・残存 16 分)

1936 年 3 月〜 5 月撮影。撮影者は長廣敏雄と水野清一 (東方文化学院京都研究所研究員)。元々は 16mm フィルム 3 巻の 45 分作品と考えられるが、現存するのは中巻 16 分のみ。現存分の撮影場所は、河北省の南響堂山・磁県彭城鎮・北響堂山、および河南省洛陽の龍門石窟。ただし現存分は、龍門石窟の途中まで。

3. 雲岡石窟 (1938 年・白黒 16mm サイレント ・35 分)

1938 年 4 月 9 日〜 6 月 15 日撮影。撮影者は水野清一 (東方文化研究所研究員)。撮影場所は、北京〜張家口〜天鎮〜大同の鉄道風景、山西省大同の下華厳寺・上華厳寺・市街地・城壁南門・南善化寺、大同郊外の観音堂・雲岡寺など。そして、雲岡石窟およびその周辺の映像が、作品のほぼ半分を占める。

入場には、京都大学総合博物館の観覧料 (一般 400 円/高校・大学生 300 円/小中学生 200 円) が必要です


ハルビン
長春
吉林省
内蒙古自治区
瀋陽
北票一馮素弗墓
義県万仏堂石窟
遼寧省
フフホト
ホリンゴール
黄
北京市
雲岡石窟
大同
天津市
涿州
太
永固陵
司馬金龍墓
渤海
河北省
河
行
石家荘
太原
山西省
山
邯鄲
響堂山石窟
青島
済南
山東省
黄海
脈
鞏義
洛陽
鄭州
龍門石窟
西安
江蘇省
河南省
安徽省
合肥
南京
上海市
湖北省
武漢
長
江
浙江省
湖南省
江西省
©石松日奈子